

タイワンクツワムシ *Mecopoda elongata* (Linnaeus)

【選定理由】

1950年代後半に岡崎を中心とする三河地方で発見されたが、なぜかその後の本種の記録は最近までほとんどが途絶えていた。ただその中で、本種の阿久比町での存在は1986～2001年にわたって記録され(相地, 2002)、今回の調査で少なからぬ個体数を確認できた。

本来は南方系である本種の今後の存続の可否や近縁のクツワムシとの競合はどうかなど継続調査が必要である。

【形態】

体長(頭～翅端)は♂♀ともに50～58mm。クツワムシに似るが、本種の♂では翅が細く長いこと、♀では産卵管がゆるく上方に反っていることなどで区別できる。褐色個体が一般的で緑色個体は少ない。南西諸島産は一般に大型。

【分布の概要】

【県内の分布】

三河地方や名古屋地方の平地部～低山地、知多半島、渥美半島。矢作川や豊川沿いに内陸部へ入っている。

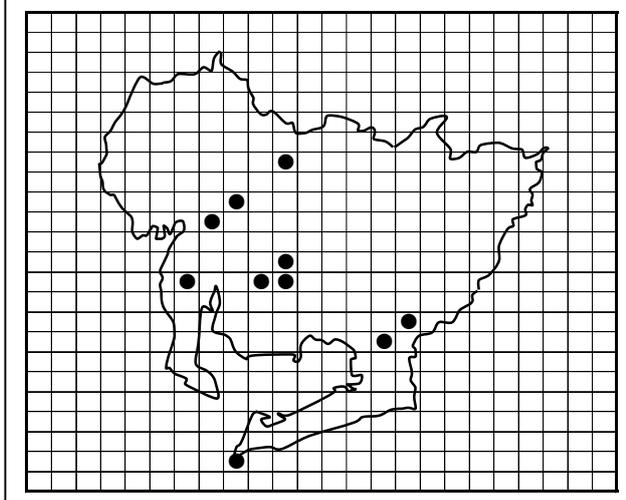
【国内の分布】

本州、四国、九州。伊豆八丈島。南西諸島。

【世界の分布】

台湾、熱帯アジア。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

造成地、大小河川の堤防や河川敷などの雑草地で、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、イタドリなどにクズが絡まっているような環境を好む。夜間に♂は時々飛ぶが♀はしばしば地面上を歩く。鳴き声は大きく「ギュルル・・・、ギュルル・・・」という前奏のあと「ガチャ、ガチャ、ガチャ」と騒々しく鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

2006年に生息が確認できたのは阿久比町のみで、ここでは調査中には常に1～2頭の鳴き声が聞こえた。しかし、クツワムシの声は聞こえず、ここでは混生していない模様である。この他、過去の記録地の大部分は河川改修や開発行為により生息地が減少した。

2008年9月も阿久比町の生息地は健在で個体数も少なくなかった。また、日進市や名古屋市天白区の天白川沿い、常滑市でも本種の生息が少数ながら確認されている。

【保全上の留意点】

主な生息環境である河川敷や堤防法面の草叢を残すこと。特に春から初秋までの草刈りはしない方がよい。草は刈り過ぎず、クズなどが絡んだ高茎草本も適度に残すことが望ましい。近年の集中豪雨に伴う河川環境への働きかけも、本種の生息に大きな影響を与えている。

【引用文献】

相地 満, 2002. タイワンクツワムシは今. 風の便り, (6): 6-7. 風の館, 愛知県.

【関連文献】

環境省, 1980. 日本の重要な昆虫類 東海版.

日本直翅類学会編, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑: 128-129, 440. 北海道大学出版会, 札幌.

市川顕彦ほか, 2016. バッタ目. 日本直翅類学会(編), 日本産直翅類標準図鑑: 135, 321. 学研プラス, 東京.

(水野利彦)